

◇◇ 第53回近畿地区国立大学体育大会 ◇◇

2015年8月12日

於：西京極総合運動公園陸上競技場

<男子>

種目	順位	氏名(学年)	決勝	予選	備考
100m		森山 和友(2)		11"69 (-0.1)	大学ベスト
		近藤 佑哉(1)		11"87 (-1.6)	
		宮崎 晃一(2)		11"95 (+0.1)	
200m		山田 祐輔(1)		22"91 (-1.9)	大学ベスト 関カレB
		竹島 周平(1)		23"44 (-1.7)	自己新
		八木 健人(2)		DNS	
400m		菊井 諒(2)		52"75	
		八木 健人(2)		DNS	
		姜 俊奎(3)		DNS	
800m	6	川植 大輝(2)	2'03"06	2'00"17	
		水越 慧太(3)		2'07"88	
1500m	7	濱野 拳(2)	4'07"27	4'10"89	
		室谷 賢二(1)		4'18"51	
		山下 駿平(1)		4'25"83	
5000m		成瀬 亮(3)	16'21"07		
		澤田 将希(2)	17'34"40		
		井上 敬太(1)	16'18"21		
110mH	7	宮崎 晃一(2)	15"27 (+0.1)	15"05 (-0.1)	自己新、西カレA標準突破、歴代4位
		藤原 雅志(2)		15"52 (+0.9)	大学ベスト
		大和 祐己(3)		15"77 (+1.1)	
400mH	7	藤原 雅志(2)	55"83	55"07	
		清水 和輝(2)		55"58	自己新
		谷本 睦弥(2)		58"17	
3000mSC	3	藤田 竣也(2)	9'28"29		
	8	坂元 亮介(2)	9'55"26		
		藤田 直輝(3)	10'06"89		
スウェーデンR	6	永田(3)・山田(1) 藤原(2)・竹島(1)	2'01"42		
走幅跳	7	大塚健太郎(2)	6m36 (+0.3)		
	8	西村拓海(1)	6m29 (+0.6)		大学初
		吉田峻一(4)	5m96 (+0.2)		
三段跳	5	永田 遼(3)	13m84 (-0.6)		
		山下雄大(4)	13m31 (-1.3)		
		瀧瀬祥良(2)	DNS		
棒高跳	6	吉田峻一(4)	3m80		
	7	宮崎晃一(2)	3m60		
		早川雄己(2)	NM		大学初
砲丸投		柳田隆光(2)	8m56		自己新
		上野環太(2)	DNS		DNS
円盤投	6	上野環太(2)	37m30		
		柳田隆光(2)	NM		
やり投		上野環太(2)	DNS		

・主将挨拶 植田悠貴

三商戦の翌日ということもあり苦しい戦いになりました。男女とも掲げていた目標を達成することが出来ず、我々の力不足を痛感させられました。関西インカレはハーフを合わせると5日間の長期戦であり、2日連続でバテては関西インカレでは戦えません。1本走る力も必要ですが、長期戦を戦い抜くことの出来るチームにしていけるようにこれからも我々一同努力していきます。末筆となりましたが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



800m 8位 川植大輝



スウェーデンリレー 永田・山田

<女子>

種目	順位	氏名(学年)	決勝	予選	備考
100m	5	宮崎 仁美(2)	12"97 (+0.7)	12"96 (-0.7)	
	8	森下 奈菜(2)	13"29 (+0.7)	13"29 (-1.2)	
		高阪 朱里(3)		13"52 (+0.1)	
200m	1	西田 文香(4)	★24"43 (-0.9)	25"48 (-0.8)	★学内新、自己新、大会新
	7	宮崎 仁美(2)	27"13 (-0.9)	27"70 (-0.2)	
		高阪 朱里(3)		28"32 (-1.4)	
400m	1	西田 文香(4)	★54"23	56"57	★学内新、自己新、大会新
	4	米田 香澄(3)	59"67	59"51	
	8	明瀬 優香(2)	1'04"00	1'01"06	
800m	1	米田 香澄(3)	2'19"41	2'31"57	
	2	上岡 咲紀(1)	2'19"82	2'21"58	大学ベスト 関カレA
	4	明瀬 優香(2)	2'21"24	2'23"51	
1500m	4	澤井 喜百(2)	4'55"24		
	8	鈴木 藍(3)	5'04"78		
		秋山 穂乃果(4)	DNS		
100mH	1	宮崎 仁美(2)	14"41 (-0.5)	14"38 (+0.8)	大会タイ
	3	森下 奈菜(2)	14"75 (-0.5)	14"72 (+0.5)	大学ベスト
		田坂 真里奈(1)		16"09 (-1.9)	
4X100mR	2	高阪(3)・西田(4) 宮崎(2)・森下(2)	49"16		歴代9位
走高跳	5	藤井 まりあ(3)	1m45		
		永久 実伽子(M1)	DNS		
走幅跳	2	末廣 真子(1)	5m45 (-0.9)		大学ベスト、西カレB、歴代6位
	4	藤井 まりあ(3)	5m24 (-1.0)		
		永久 実伽子(M1)	DNS		
砲丸投	1	麓 沙恵(2)	★12m90		★学内新、大学ベスト、個人選手権
	8	藤井 まりあ(3)	7m99		大学初
		永久 実伽子(M1)	DNS		
円盤投	1	麓 沙恵(2)	34m30		
	8	藤森 郁美(3)	25m18		大学初 歴代5位
		飯田 優希(4)	20m09		
やり投	5	西田 文香(4)	37m20		自己新 歴代3位
	8	麓 沙恵(2)	29m30		大学ベスト
		鈴木 藍(3)	NM		大学初
3000mOP	3	秋元 麻衣花(2)	11'04"39		歴代13位
	4	佐々木 真子(1)	11'08"96		歴代15位
		杉岡 祐依(1)	11'58"93		

・女子主将挨拶 米田香澄

近国の女子の総合結果としては2位でした。2連覇を目標にし、多種目への出場、専門外の種目への出場を選手には無理にしてもらったところもありましたが、果たすことができず、非常に悔しく、申し訳ない思いがあります。

しかし、まだまだ対校戦はあります。負けたことを悔しいで終わるのではなく、この悔しさをバネに、個人個人がもっと強くなることができるように練習を積んでいきたいと思えます。

暑期中、応援に駆けつけて下さったOB様、OG様、本当にありがとうございました。また一段と成長した姿を見てもらえるよう、切磋琢磨して頑張っていきますので、これからも応援よろしくお願いします。



女子総合表彰式



電光掲示板女子総合得点

～ 女子 6 種目優勝 ～

今回の近国体では女子が六種目において1位になるという素晴らしいことが起こりました。そこで各種目優勝者からのコメントをここに載せさせていただきます。

西田 文香

400m 優勝

毎年ベストを出している試合なので、絶対ベスト出せると思って後のことは考えず走りました。決勝に神戸が3人いてとても心強かったです。

200m 優勝

400 の後で、体力的にはかなりキツかったですが、ベストを更新して優勝することができ嬉しいです。前半スピードがいまいち乗らないので、これからの課題とします。



200m 1位 西田文香

米田 香澄

800m 優勝

400m の決勝の 20 分後に 800m の決勝という、厳しいタイムスケジュールではありましたが、優勝することができてよかったです。来年は、神戸大学で 800m の表彰台を独占したいと思います。

麓 沙恵

砲丸投優勝

昨年に引き続き 2 連覇することができました。また、大学ベストも大きく更新し個人選手権標準を突破することが出来ました。来年は全国の舞台で戦えるようにこれからも練習に励んでいきたいと思っています。

円盤投優勝

円盤も昨年に引き続き 2 連覇することが出来ました。記録は砲丸と比べると全く良くないので、円盤の方も大きく神大記録を塗り替えられるように頑張っていきたいと思っています。



砲丸投 1位 麓 沙恵



100mH 1位 宮寄 仁美

宮寄 仁美

100mH 優勝

応援に駆け付けていただいた先輩方

ありがとうございました！！

新 18 平田明男

新 21 絹田清昭

新 32 鎌田早苗

新 62 関口泰樹

近国体観戦記（女子を中心として）

新32回 鎌田（岡田）早苗

2015年8月12日（水）、真夏の西京極陸上競技場に今年もやってきた。前年は念願の初優勝を果たした神大女子。前日の三商大戦で男子の総合優勝を見た彼女たち、2日連続の大会だが、疲れも見せずに躍動した。

トラック競技2種目めは女子1500m決勝。鈴木と澤井が、秋山欠場の穴を埋めるべく飛び出した。3周めに少し差をつけられたが、澤井はラスト200mから2人を抜いて、4'55"24で4位。鈴木も粘りを見せ、5'04"78で8位に入賞した。

投てき競技は、籠が砲丸投→円盤投→やり投と、休む間もなく3種目をこなした。最初の試技、砲丸投の1投めで12m90の大学ベスト、学内新を投げて優勝すると、円盤投も34m30で優勝、やり投は、29m30ながら大学ベストで8位に入賞した。母校西京高校の後輩たちが補助員として大会運営に協力し、キビキビと働く様子を、目を細めて見ていたに違いない。砲丸投は藤井が7m99で8位、円盤投は三商大戦を取り仕切った藤森が25m18で8位、やり投は七種の実績もある西田が自己ベストの37m20を投げて5位と複数の入賞を果たした。しかし京教大が少しずつ得点で上回っている。トップ8には残れなかったが、円盤投の飯田、やり投の鈴木も、慣れない種目ながら少しでもチームに貢献しようと頑張っていた。

藤井もフィールド3種目に活躍。砲丸投と同時進行の走高跳では1m45を跳び5位、走幅跳でも4位に入賞した。しかし、走幅跳で昨年32年ぶりに学内記録を更新(5m68)したことを考えると、今回の記録5m24には決して満足していないだろう。一方、1回生の末廣は元気な跳躍、5m45で2位に入賞した。環境になじんで本領発揮するのが待ち遠しい。ピットそばのスタンドでは後輩たちにアドバイスする永久の姿があった。自分が出場できないもどかしさを感じていたことだろう。来年再び総合優勝を目指すとき、フィールド種目における彼女の活躍は欠かせない。じっくり体を治して、また存在感のある跳躍をしてくれるのを待っている。

100mHは宮寄が予選で14"38の大会記録タイをマーク。決勝でも強さを見せ、14"41で優勝、森下は14"75の3位と2人で表彰台上がった。田坂は、これから力をつけて活躍できるランナーに育ってほしい。

昨年3人が入賞し、総合優勝の原動力になった400m、800mは、今年もタフさを見せつける形になった。400mは西田、米田、明瀬の3人、800mは米田、明瀬に1回生の上岡を加えた3人で臨み、それぞれ3組2着+2の予選を通過して、決勝のスタートラインに立った。400mはスタートから飛ばした西田が、自身が持つ大会記録を0"41更新する54"23の自己新、学内新、大会新、兵庫学生新で3連覇。米田が59"67で4位、明瀬が1'04"00で8位と3人入賞。米田、明瀬は20分後の800m決勝にも挑んだ。レースはこの種目のみ出場の上岡が引っ張る形になったが、ラスト勝負でスピードのある米田がかわして2'19"41で連覇、上岡が2'19"82の2位、明瀬は2'21"24で昨年に続き4位となった。途中曇る時間帯もあったが、30度を超す暑さの中、4本を走り切った米田、明瀬のスタミナは素晴らしい。

100m、200mにも3人ずつがエントリーし、それぞれ2人が決勝に進んだ。100mは京教大の選手が大会新の走りでゴールを駆け抜ける中で健闘し、宮寄は12"97で5位、森下は13"29で8位だった。200mは西田がライバルとの競り合いに勝ち、24"43の自己新、学内新、大会新で2種目3連覇を達成。宮寄もアウトレーンから積極的な走りを見せ、27"13で7位に入賞した。西田が素晴らしいのは、どんな試合でも全力で取り組み、常に自己記録の更新を目指し、ここぞという時にそれを達成することだと思う。今回も個人3種目で自己記録を更新した。それにはおそらく、日頃の練習に取り組む姿勢、生活の中でのコンディショニングなど、本人なりに心掛けていることがあるのだろう。学生として貴重な時間、全てを陸上競技のために費やすのは現実的ではない。しかし、身近な先輩から見習い、自分の在り方を見直し、改善することで、よりよい結果に結びつくことはあるのではないだろうか。

今回オープン種目ながら初めて実施された3000mには秋元、佐々木、杉岡の下級生3人が挑んだ。2000mまでは先頭集団を形成していた秋元、佐々木だったが、残り2周で佐々木が離され、11'08"46の4位、秋元も最後は先頭に付いていけず11'04"39の3位、杉岡は11'58"93で大学初記録だった。3人ともこれから走り込んで地力をつけ、更なる活躍を期待したい。

女子の最終種目は4×100mR、高阪-西田-宮寄-森下のオーダーで臨んだ。今回個人種目での決勝進出がならなかった高阪、このレースに最後の力をぶつける走りだった。西田-宮寄-森下とつなぎ、49"16。しかし、京教大には約2秒の差をつけられ、順位は2位だった。

女子と比較することは適切ではないのかもしれないが、男子は前日の影響もあり、順位も記録も充分とは言えない結果だった。その中で、宮崎の110mHは予選で15"05と自己記録を更新、決勝では15"27で7位だったが、頑張ったと言える。前日、110mH、棒高跳の個人2種目で優勝、今回も3種目に出

場し、タフなところを見せた。200mでは新人の山田が予選で22'91の大学ベスト、関カレB標準突破と頑張った。このタイムでも決勝に進出できなかったという現実を受け止め、今後向上してほしい。その他、自己記録を更新した者もいるが、対校戦である以上、複数の入賞があったのがトラック種目で3000mSC(3位、8位)のみ、フィールド種目でも走幅跳(7位、8位)と棒高跳(6位、8位)のみというのは寂しい。総合でも、去年は確か4位だったと思うが、今年はおそらく5位か6位といったところだろう。関西インカレ1部昇格のためには大量得点が必要である。選手自身も反省していたが、4日間、5日間の大会を乗り切る基礎的な体力と次のラウンドを目指すガッツを備えること、その上で競技力をつけてチームとしてレベルアップすることが求められる。

女子の対校得点はトラック88点、フィールド39点、総合127点でいずれも2位だった。事前の戦力分析では114.5点の予想だったので、神大女子としては健闘したと言えるだろう。一方京教大はトラック94点、フィールド72.5点、総合は166.5点だった。去年は男女とも総合2位だったが、今年は優勝を取り戻した形になった。過去の記録をひも解くと、2013年の第51回大会でも神大女子は総合2位に入っている。しかし、その時と今回とは感じ方が異なっているだろう。これからまた、挑戦者として努力を重ね、チームとしての勝利を目指してほしいし、京教大や大教大とは、同じ国立大学としてよいライバル関係であってほしい。また、神大女子のもう一つの目標、関西インカレ総合8位入賞のためには、個人の更なるレベルアップが不可欠だろう。そのための努力は今からでも始められる。

十種競技の日本記録保持者、右代啓祐選手は、できないことがあると、それを「自分にはまだ伸びしろがある」と受け止め、克服するための努力を重ねるそうだ。日本一の選手でさえそうなのだから、神大陸上部の選手たちは伸びしろだらけだ。また、アスリートと共に戦うマネージャーたちも、部の円滑な活動のために工夫し、向上していくポイントはあるだろう。一人ひとりが自分たちの現状に真摯に向き合い、努力し、前進していく姿に会えるのが、楽しみだ。そして、今回彼らを応援できたことを幸せに感じ、感謝している。